

農林水産分野 GHG 排出削減技術海外展開パッケージに係る 第 4 回意見交換会（農業分野①）

日時：令和 7 年 5 月 8 日（木）9：45～10：45

場所：農林水産省 6 階 技術会議委員室

参加者：別紙参照

【出席者コメント概要】

- ・ クレジット投資は GX-ETS に基づくコンプライアンス市場の盛り上がりにより強く依存するため、需要側の創出をお願いしたい。
- ・ 現行の JCM—AWD 方法論におけるモニタリングでは人海戦術に頼らざるを得ず、現地での人員確保やオペレーションコストが大きな課題。このため、リモートセンシング技術の適用促進における政府の支援が必要。
- ・ スマート農業推進のデバイス等に現地法の許認可が必要なため、各国の規制の対応方針提示や、規制対応の支援を行ってほしい。
- ・ 海外展開における各国政府・要人・主要行政機関とのコネクション作りを支援してほしい。
- ・ スイスやシンガポールは、Verra/Gold Standard などボランタリークレジットにおけるグローバルスタンダードな方法論の採用を協議していることから、日本においても、その採用を検討してほしい。
- ・ 相手国政府と民間事業者間のクレジット配分比率が事前に定まっておらず、事業計画が立てづらい。
- ・ スタートアップ企業が海外展開しようとしてもアポ取りから苦戦することが多いため、本パッケージのような政策文書へ掲載されると信憑性が増す。

- 投資家が投資判断するにあたって制度リスクへの言及が大きいため、制度の細則やスケジュールが明確であると投資を呼び込みやすいのではないか。
- 相手国（特に農業セクター）に対し、農業 JCM に係る継続的な啓蒙活動をお願いしたい。
- プロジェクト組成のための実現可能性調査等における資金提供をお願いしたい。
- 日本国内で各社が補助金の取り合いで戦う前に、国と国との戦いを見据え、日本勢で一丸となって戦う形が実現できないか。

農林水産分野 GHG 排出削減技術海外展開パッケージに係る
第4回意見交換会（農業分野①）出席者一覧

株式会社クボタ

轟 晋 機械業務部 渉外課長
孫 賢順 イノベーションセンター
カーボンニュートラル事業企画室 事業企画課
美馬 京志 アグリソリューション事業企画推進部
企画課長

Green Carbon 株式会社

横山 治生 プロジェクトマネージャー

株式会社フェイガー

石崎 貴紘 代表取締役

農林水産省

渡邊 洋一 農林水産審議官
堺田 輝也 技術総括審議官 兼 農林水産技術会議事務局長
西 経子 大臣官房審議官（技術・環境）
窪田 修 国際食料情報特別分析官（兼輸出・国際局）
信夫 隆生 農林水産技術会議事務局 研究総務官
松本 賢英 農産局 農業環境対策課長（代理）
高野 伸 農村振興局 設計課 海外土地改良技術室長
（代理）